

第 37 回 全 関 西 中 学 生 バ ス ケ ッ ト ボ ール 交 歓 大 会

参 加 報 告 書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	第37回 全関西中学生バスケットボール交歓大会			
●日程	令和元年12月27日 (金) ~		令和元年12月29日 (日)	
●会場	広島県立総合体育館 他			
●講師	神田 亮一 様			
●スケジュール	令和元年12月27日 (金)			
	9:30 実技研修 18:15 座学			
	令和元年12月28日 (土) ~ 29日 (日)			
	9:30 実技開始 第3試合終了後 閉講式			
●担当試合	令和元年12月28日 (土) 9:30 ~			
	対戦カード	大成 VS		直方第一
	主審	主審 平出 圭佑	副審	野村 凌我
	講師／主任	松本 陽介 様		
	講評	ショットクロックのミスが多いゲームだった。確認できているものについてはきちんと訂正することができていたが、プレイが慌ただしくなっているときのミスに気づけていない場面がいくつかあった。把握はしきれなかったが、最後まで時計を管理する姿勢は良かった。セカンダリーで笛を入れるケースもあり、良かったと思う。		
●担当試合	令和元年12月28日 (土) 13:15 ~			
	対戦カード	高草 VS		高川学園
	主審	主審 林 正典	副審	平出 圭佑
	講師／主任	川人 理恵 様		
	講評	出だしの2つのファウルコールで基準を示してくれて良かったと思う。セカンダリーでコールしているもので、いいタイミングで鳴らしているものと早すぎるものがある。パートナーと一緒にやっているの、セカンダリーの笛のタイミングと内容はもっともっと精査していく必要がある。		
●担当試合	令和元年12月29日 (日) 8:30 ~			
	対戦カード	鳥取湖東 VS		広島県選抜
	主審	主審 川人 理恵	副審	高橋将哉、平出圭佑
	講師／主任	二反田 健翔 様		
	講評	湖東のガードのパーミングがとても気になった。3Qにようやく笛が入ったが、それまではどうだったか？3Qから笛が入ることに違和感がある。インティグリティについて。コーチが交代して戻ってきた選手を指を指してずっと怒っていた。そのことにクルーの誰もが気づけていないことがまずい。判定は特に問題がないが、ベンチ管理などもっともっと追求してほしい。		
●担当試合	自己の感想			
	セカンダリーのタイミングなど、できている部分とできていない部分がある。パートナーと一緒に協力できるようにその部分をもっともっと突き詰めていかないといけないと思った。クロック管理について、積極的に修正をすることができ、次に繋がる経験にすることができた。インティグリティなどベンチ管理など、コーチや選手とのコミュニケーションにも積極的にチャレンジしていきます。チャレンジできた2日間でした。貴重な経験をありがとうございました。			

第 37 回 全 関 西 中 学 生 バ ス ケ ッ ト ボ ー ル 交 歓 大 会
参 加 報 告 書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	第37回 全関西中学生バスケットボール交歓大会				
●日程	令和1年12月27日 (金) ~ 令和1年12月29日 (日)				
●会場	広島県立総合体育館 中区SC 佐伯区SC				
●講師	神田 亮一 様 望月 公平 様				
●スケジュール	令和1年12月27日 (金)				
	9:30 会場到着 12:00 実技開始 18:15 講師講話(3POメカニクスとIoTの共通理解) 19:30 終了				
	令和1年12月28日 (土)				
	9:30 実技開始				
	令和1年12月29日 (日) ~				
	8:30 実技開始 第5試合終了後 閉講式				
●担当試合	令和1年12月27日 (金) 12:00 ~				
	対戦カード	藤井		VS	菊陵
	主審	主審 北岡 晋一 氏	副審	西田 尚樹	
	講師／主任	なし			
	講評	クルーでの反省 ・全体的に大きなトラブルもなく、クルーで協力して判定することが出来た。 ・比較的穏やかなゲームだったので落ち着いて判定することが出来たが、映像で確認をしてみると判定したケースの中にマージナルなケースがあったので、よりプレーを長くとらえられるようポジション取りやアングルの取り方を工夫しなければいけないと感じた。			
●担当試合	令和1年12月27日 (金) 14:30 ~				
	対戦カード	彦根		VS	香川第一
	主審	主審 西田 尚樹	副審	中川 寛樹 氏	
	講師／主任	なし			
	講評	クルーでの反省 ・OOBやクロック管理など、クルー間で協力してゲームを進めることが出来ていた。 ・判定に関して大きなミスなどは無かったが、トラベリングの判定についてクルーで確認して、一貫した判定になるようにしなければいけなかった。			
●担当試合	令和1年12月28日 (土) 10:45 ~				
	対戦カード	菊陵		VS	国泰寺
	CC	川人 理恵 氏	U1	安福 悟 氏	U2 西田 尚樹
	講師／主任	桑本 大貴 氏			
	講評	・1ゲーム通して、クルーで協力して判定することが出来ていた。 ・クロック管理についても、Magic timeを活用してクロックを正しい時間に訂正したり、チームファウル数などの表示物の確認もできていたので、スムーズなゲーム進行が出来ていた。 ・判定したケースの中にマージナルなものがあったので、1つ1つのプレーに対してRSBQが崩れていないかどうかしっかり見極めていく必要がある。			

●担当試合	令和1年12月29日 (日) 9:30 ~					
	対戦カード		八万 VS		広島県選抜	
	CC	西田 尚樹	U1	坂本 涼子 氏	U2	奥川 貴久 氏
	講師／主任		片山 峻 氏			
	講評		・ゲーム全体では、テンポセットもよく大きなトラブルもなく判定することが出来ていた。 ・ゲームが進んでいくにつれてクローワークが良くなっていき、ローテーションもスムーズに行うことが出来るようになっていった。 ・バックコートからフロントコートにプレーが進む中で、センターサイドヘボールが運ばれたときにTとCがしっかり協力してプレーをとらえられるようにする。CはTにチェックインしたことを体の向きや1歩動いてアジャストするなどしてTに伝え、Tがチェックアウトできるようにする。			
●担当試合	令和1年12月29日 (日) 11:45 ~					
	対戦カード		香川第一 VS		益田	
	CC	西田 尚樹	U1	高橋 将哉 氏	U2	落合 正典 氏
	講師／主任		なし			
	講評		クローでの反省 ・3POの経験が比較的多いクローだったので、ゲームの序盤からスムーズなローテーションを行うことが出来ていた。大きなトラブルもなく1ゲーム判定していくことが出来ていた。 ・それぞれのプライマリーで起こるプレーに対しておおむね判定が出来ていたが、Lエリアで起こるプレーに対してLが判定できるケースもあったので、もっとアクティブLの意識を持たなければならなかったと思った。			
●自己の感想	この3日間、これまでの講習会でご指導、ご指摘いただいたことを意識してゲームに臨みました。ゲーム管理については、クロックの管理やチームファウル数の確認など落ち着いて行うことが出来ました。また、プレゼンテーションについても、立ち振る舞いであったり、デリバリースキルを高めるために様々な場面で声を使うことを意識してゲームに臨みました。自身でチャレンジしてみて、何が起こったのか会場中にわかりやすく伝える方法や、言葉の使い方について改善の余地があると感じたので、さらに工夫をしてデリバリースキルを高めていきたいです。 自身の一番の課題である判定力について、マージナルなケースの判定がまだまだあるので、プレーをしっかりと見極め、必要に応じてレイトコールも活用するなど改善してかなければならないと感じました。 最後になりましたが、この大会で3日間お世話になりました広島県バスケットボール協会の皆様、ご支援ご協力を賜りました大阪府バスケットボール協会の皆様に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。					

第 37 回 全 関 西 中 学 生 バ ス ケ ッ ト ボ ー ル 大 会

参 加 報 告 書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	第37回全関西中学生バスケットボール選手権大会		
●日程	令和元年12月27日（金） ～ 令和元年12月29日（日）		
●会場	広島県立総合体育館（グリーンアリーナ）等		
●講師	中国ブロックインストラクター部会長 T級インストラクター 神田 亮一様		
●スケジュール	令和元年12月27日（金）		
	9:30 実技開始（開講式等なし）		
	17:30 実技終了		
	18:30 講義 講師 神田 亮一氏 「協力し、正しく判定するために」 2PO・3POメカニクスとIOTの理解		
	20:00 講義終了・各自宿舎移動		
	令和元年12月28日（土）		
	9:30 実技開始 17:30 実技終了 19:30 懇親会 21:00 懇親会終了・各自宿舎移動		
●担当試合	令和元年12月29日（日）		
	8:30 実技開始 15:30 実技終了 15:45 閉講式		
	令和12月27日（金） 10:45 ～		
	対戦カード（男子）	桜ヶ丘（鳥取）	VS 西福岡（福岡）
	主審	主審 島袋 侑 氏（山口）	副審 杉谷 雄大
	講師／主任	無	
	講評		
	自己の感想	・自身の課題として「マージナル」をファウルとして取り上げてしまう傾向が強く、学年により身体的なさが大きな中学生の接触は、判断が困難なケースが多かった。 ・ゲームを通して、0ステップとトラベリングとの境界が整理し切れずベンチからのアピールが起こる場面が増えた時間帯があり、ステップから突き出しまでの捉え方を整理する必要があると感じた。	

第 37 回 全 関 西 中 学 生 バ ス ケ ッ ト ボ ー ル 大 会

参 加 報 告 書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	第37回全関西中学生バスケットボール選手権大会		
●日程	令和元年12月27日 (金) ~ 令和元年12月29日 (日)		
●会場	広島県立総合体育館(グリーンアリーナ)等		
●講師	中国ブロックインストラクター部会長 T級インストラクター 神田 亮一様		
●スケジュール	令和元年12月27日 (金)		
	9:30 実技開始(開講式等なし)		
	17:30 実技終了		
	18:30 講義 講師 神田 亮一氏 「協力し、正しく判定するために」 2PO・3POメカニクスとIOTの理解		
	20:00 講義終了・各自宿舎移動		
	令和元年12月28日 (土)		
	9:30 実技開始 17:30 実技終了 19:30 懇親会 21:00 懇親会終了・各自宿舎移動		
●担当試合	令和元年12月29日 (日)		
	8:30 実技開始 15:30 実技終了 15:45 閉講式		
	令和元年12月27日 (金) 13:15 ~		
	対戦カード(男子)	島根湖東(島根) VS 富雄(奈良)	
	主審	主審 村瀬 篤 氏(愛知)	副審 杉谷 雄大
	講師/主任	広島県バスケットボール協会 審判部 廣末 彰夫氏(3級インストラクター)	
	講評	取り上げているファウルに波があり統一されていないものが多く、たとえ誰が見てもファウルである事象についても、ベンチ・チームとの信頼関係が薄くなり大きなリアクションを誘発する原因になったのではないかと。コーチ・ベンチ・選手とのコミュニケーションはどうだったのか、ベンチの様子をちゃんと情報共有できていたかどうか問われるゲームだった。	
	自己の感想	・テンポセットを意識しすぎ、エモーショナルに反応してしまった1Qを修正するように、1Qで鳴ったものが鳴らない2Qになり不信感を招いてしまった。 ・お互いのベンチがヒートアップし、コート内に入って異論表現に発展しワーニングを入れるが他方のチームへの声掛けはしておらず一方的に制裁のような形になってしまった。 ・判定の差異によってベンチの熱量を上げてしまった負い目のようなもの感じてしまい、ゲームに集中しきれなかった。改善していきたい。	

第 37 回 全 関 西 中 学 生 バ ス ケ ッ ト ボ ー ル 大 会

参 加 報 告 書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	第37回全関西中学生バスケットボール選手権大会		
●日程	令和元年12月27日 (金) ~ 令和元年12月29日 (日)		
●会場	広島県立総合体育館(グリーンアリーナ)等		
●講師	中国ブロックインストラクター部会長 T級インストラクター 神田 亮一様		
●スケジュール	令和元年12月27日 (金)		
	9:30 実技開始(開講式等なし)		
	17:30 実技終了		
	18:30 講義 講師 神田 亮一氏 「協力し、正しく判定するために」 2PO・3POメカニクスとIOTの理解		
	20:00 講義終了・各自宿舎移動		
	令和元年12月28日 (土)		
●担当試合	9:30 実技開始		
	17:30 実技終了		
	19:30 懇親会		
	21:00 懇親会終了・各自宿舎移動		
	令和元年12月29日 (日)		
	8:30 実技開始		
●担当試合	15:30 実技終了		
	15:45 閉講式		
	令和元年12月28日 (土) 10:45 ~		
	対戦カード(男子)	富雄(奈良)	VS 北稜(高知)
	主審	主審 高菅 靖友 氏(山口)	副審 杉谷 雄大
	講師／主任	島根県バスケットボール協会 審判部 豊田 馨子 氏	
●担当試合	講評	・二人のエリア分担ができていた。特にエリア3の内側・外側のドライブに対してアングルが捉えられるようにきちんと視野に入れながらポジションを取っていることが伝わった。 ・Lのポジションに入ったとき、クローズダウンまで行くことを意識しているがアウトサイドの3Pショット時、体はペイントエリアに向き顔だけが外を向いて判定している。バックペダル、もしくはアクティブリードの考えからすれば体をオープンにして確認すべき。 見え方、見られ方の工夫がもう少し必要。	
	自己の感想	・テンポセットは意識したものの細かなものではなくビッグインパクトを逃さず判定できた。プレカンファレンス時にエリア3の視野分担を話し合ったことで、お互いに見るべき範囲とエリアに集中できたことでよい判定につながった。 ・映像も撮っていただき、指摘のあった体の向きと顔の向きの不一致について修正の必要があることも客観的に確認ができた。	

第 37 回 全 関 西 中 学 生 バ ス ケ ッ ト ボ ー ル 大 会
参 加 報 告 書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	第37回全関西中学生バスケットボール選手権大会				
●日程	令和元年12月27日（金）～令和元年12月29日（日）				
●会場	広島県立総合体育館(グリーンアリーナ)等				
●講師	中国ブロックインストラクター部会長 T級インストラクター 神田 亮一様				
●スケジュール	令和元年12月27日（金）				
	9:30 実技開始(開講式等なし)				
	17:30 実技終了				
	18:30 講義 講師 神田 亮一氏 「協力し、正しく判定するために」 2PO・3POメカニクスとIOTの理解				
	20:00 講義終了・各自宿舍移動				
	令和元年12月28日（土）				
	9:30 実技開始 17:30 実技終了 19:30 懇親会 21:00 懇親会終了・各自宿舍移動				
●担当試合	令和元年12月29日（日）				
	8:30 実技開始 15:30 実技終了 15:45 閉講式				
	令和元年12月28日（土） 14:30 ～				
	対戦カード(女子)	松徳学院(島根)		VS	国泰寺(広島)
	主審	CC	掛田智花 氏(広島)	U1	竹田 明男 氏(広島)
				U2	杉谷 雄大
	講師／主任	広島県バスケットボール協会 審判部 三宅 邦明 氏			
	講評	ゲームを1試合通して、プライマリエリアで鳴らすべきレフリーではないレフリーが鳴らしてしまったり、ダブルコールなどが多くクルーワークの乱れがよく見られた。メカトラブルが起きやすいローテーションに関してクイックシュート、クイックドライブのタイミングでの動き出しがあり3人のコミュニケーションがちゃんとできていなかったように感じる。3人の視点が同じエリアを見ている場面も多く見られたように感じる。クルーワークに関してそれぞれの認識を改めて整理する必要がある。			
	自己の感想	・プライマリエリアではない場面で1番手でのコールがいくつもあった。見るべきエリアでないところでボールウォッチャーになっていることが原因であると考え。 ・自分の持っている情報の伝え方、もしくは自分が把握できていないことへの尋ね方など、クルー間のコミュニケーションの取り方について改善すべき点が多く見つかった。 判定やゲームに臨むより以前に、PGC時に会話を重ね初対面のクルーでいかにゲームコントロールにつなげることができるか、自身の大きな課題になった。			

第 37 回 全 関 西 中 学 生 バ ス ケ ッ ト ボ ー ル 大 会

参 加 報 告 書

掲題の件、下記の通りご報告申し上げます。

●大会名	第37回全関西中学生バスケットボール選手権大会				
●日程	令和元年12月27日 (金) ~ 令和元年12月29日 (日)				
●会場	広島県立総合体育館(グリーンアリーナ)等				
●講師	中国ブロックインストラクター部会長 T級インストラクター 神田 亮一様				
●スケジュール	令和元年12月27日 (金)				
	9:30 実技開始(開講式等なし)				
	17:30 実技終了				
	18:30 講義 講師 神田 亮一氏 「協力し、正しく判定するために」 2PO・3POメカニクスとIOTの理解				
	20:00 講義終了・各自宿舍移動				
	令和元年12月28日 (土)				
●担当試合	9:30 実技開始				
	17:30 実技終了				
	19:30 懇親会				
	21:00 懇親会終了・各自宿舍移動				
	令和元年12月29日 (日)				
	8:30 実技開始				
●担当試合	15:30 実技終了				
	15:45 閉講式				
	令和元年12月29日 (日) 9:50 ~				
	対戦カード(男子)	桜ヶ丘(鳥取)		VS	北陵(高知)
	主審	CC	林 正典 氏(愛知)	U1	宮崎 拓 氏(広島)
				U2	杉谷 雄大
●担当試合	講師／主任	兵庫県バスケットボール協会 中体連 安福 悟 氏			
	講評	3人の視点が重なってしまう場面が多く、それぞれのエリアの認識は共通していなかったように感じられた。 選手が3日間の大会日程の中で、最終日の集中力や体力の低下がプレミスに繋がり笛でのメッセージが届かない場面で、ゲームを引き締めるための声が出ていたことはよかった。ネクストボーナス、交代の声掛けなどの必要な場面での声があった。トラブルやイレギュラーなことが発生する可能性は常に頭に入れておく必要がある。			
	自己の感想	・エリアの意識が低くなってしまい、ボールウォッチャーになってしまう時間が多かった。トリプルコールを招く結果になり自分のコールが必要ない場面もあった。 ・普段はネクストボーナスのハンドサインのみを出していたが、やはり声を使い選手・クルーにも喚起しゲームをコントロールすることの重要性を再認識した。 今大会を通して、自分のエリアについての認識、判定についてRSBQを考え直す必要があると感じた。			